

地域における医療介護職協働 在宅看取りケア研修事業 報告

今年度実施地域：京田辺市、右京区、上京区、中京区、宇治市、西京区

京都市上京区での開催*

8月3日（土）に京都アスニーで実施しました。

介護支援専門員6名、訪問看護師15名、病院看護師5名、診療所看護師2名、薬剤師7名、医師1名、ヘルパー5名、介護支援専門員6名、MSW1名
合計42名の参加でした。



「自宅で最期まで生きる」を支えるための多職種研修会～上京区編～

主催：一般社団法人 京都府訪問看護ステーション協議会
令和元年度京都地域包括ケア推進団体交付金事業

多死社会を迎える中、住み慣れた上京区で、「最期まで暮らしたい」と望む方々と共に、安心して在宅看取りができる地域づくりについて一緒に考えて行きませんか？

先着70名様

参加費無料

日時：令和元年8月3日（土） 14:00～16:30（受付13:30～）

開場：京都アスニー 3階 第2研修室

【内容】

テーマ：多職種で支える自宅での看取りケア

◎14:00

講演 「在宅での看取りについて」

在宅医 たなか往診クリニック

田中 誠 医師

14:30 訪問看護師より

訪問看護ステーションひろば 茶谷 妙子 訪問看護認定看護師

14:45 ケアマネジャーより

居宅支援わかば 野々村 浩之 主任介護支援専門員

◎15:00 交流会

『地域の現状と支援のつながりを考えながら私たちが力を合わせてできることを語り合しましょう！』

◎15:45 まとめ



【問い合わせ先】

総合ケアステーションわかば
担当：田辺 〈電話 075-451-0001〉

「自宅で最期まで生きる」を支えるため、上京区が多職種が協働していけるように看取りについて学びを深め、また交流することで顔の見える関係づくりができればと研修会を開催しました。

地域の医師、訪問看護師、介護支援専門員の立場から「在宅の看取りについて」のお話をいただき地域チームで関わることの大切さを再確認しました。

グループ交流では症例をもとに意見交換を行いました。各職種がそれぞれの視点で活発に意見交換がなされ、病院の看護師やヘルパーの参加もあり様々な切り口で支援への意見がでていました。

地域の現状と支援のつながりを考えながら、私たちが力を合わせていくためのきっかけができたと考えます。「情報共有・連携の重要性」が再確認され、今後、京あんしんネット等を用いた連携ツール等についても深めていきたいと考えます。

【参加者アンケートより】

- ・地域のサービス事業所の方々と顔を合わせ話ができる会はありがたい。
- ・他職種の意見を聞いて良かった。
- ・応報共有を図っていきたい。
- ・また、このような機会があればと思った。
- ・医療・介護・地域ケアの重要性を感じる。
- ・他職種の意見を聞くことができ、病院の中だけでは分からない視点をもたらすことができた。
- ・顔の見える関係づくりが大切だと再認識した。
- ・リーフレットは一般の方には少しかたいので使いにくいと思う。
- ・グループ討議はとても良かったが、テーマを絞ってもっと専門的な話があっても良いのでは。
- ・今後の退院支援に生かしていきたい。
- ・適切な薬物療法のためには、他職種との連携が不可欠だと考えるので連携していきたい。
- ・わかりやすい研修でとても理解できた。
- ・介護中信の話だったので、医療の面からの話も聞きたかった。
- ・急性期病院勤務だが、在宅支援の重要性について勉強になった。
- ・看取り経験の少ない方の意見を聞いて新たな派遣があった。

